

編入学試験 感性工学専攻 【出題意図・解答例】

問題 1

データおよびデータが示す意味を正しく読み取り、複数のデータを比較・整理することができるか（アドミッション・ポリシー②にある「記載された文章や図表を理解できる論理的・数理的な思考力と基礎学力を身に付けていること」）

問 1

- | | | | |
|---------|----------|----------|----------|
| (1) 日本 | (2) 42.7 | (3) 46.8 | (4) 40.0 |
| (5) ドイツ | (6) 72.7 | (7) 34.1 | (8) 38.6 |

問題 2

文章中の内容に基づき、設問対象の意義や特性および設問対象に対する自分の考えを論理的に述べることができるか（アドミッション・ポリシー①「人の感性に関する知識と AI（人工知能）技術を活用することにより、AI 時代の情報化社会において STEAM 人材として活躍する意欲を持つことを期待する」、および、アドミッション・ポリシー②にある「記載された文章や図表を理解できる論理的・数理的な思考力と基礎学力を身に付けていること」）

問 1

コンヴィヴィアリティとは、人間がテクノロジーに過度に依存して主体性を失うのではなく、人間とテクノロジーが互いの主体性を保ちながら、ゆるやかに依存し合う関係を築くという考え方である。人間の能力を十分に生かし、生き生きとした幸福な状態を高めるためにテクノロジーを活用することを重視する。

※表現は一意に定まらないが、以下の内容を適切に説明していることを評価する。

内容：「互いの主体性を奪わない」「ゆるやかに依存し合う」関係であることを説明

論理性：コンヴィヴィアリティの特徴と目的が筋道立って述べられている

表現：文法的に正確、主語・述語が対応、「ですます調」もしくは「である調」に統一

問 2

第一の分水嶺とは、テクノロジーの普及によって人間の自由度や能力が高まる段階であり、本文では自転車の普及によって人間の移動能力が拡張される例が挙げられている。第二の分水嶺とは、逆に人間がテクノロジーに隷属し、自由を奪われ始める段階である。例えば完全自動運転車により、人間が能動的に動く必要がなくなる状態がこれに当たる。

※表現は一意に定まらないが、以下の内容を適切に説明していることを評価する。

内容：「第一の分水嶺」と「第二の分水嶺」の違いを、自転車と完全自動運転車の例を用いて説明

論理性：人間の自由度・能力の向上と、テクノロジーへの隷属という対比が明確である

表現：文法的に正確、主語・述語が対応、「ですます調」もしくは「である調」に統一

問 3

※解答は一意に定まらない。本文の内容を踏まえ、ロボットと人間のコンヴィヴィアルな関係の特徴と、その利点について適切に考察していることを評価する。

内容：本文のネコ型配膳ロボットの例を踏まえ、人間とロボットが互いの主体性を保ちながら協力する関係について説明し、その利点について考察している。

論理性：コンヴィヴィアルな関係の特徴と、それによって生じる利点との関係が筋道立って述べられている。

表現：文法的に正確、主語・述語が対応、「ですます調」もしくは「である調」に統一

問 4

※解答は一意に定まらない。本文の内容を踏まえ、AI やロボットとの自立共生的な関係を築くための工夫や配慮について、自分の意見を論理的に述べていることを評価する。

内容：AI やロボットとの自立共生的な関係を築くための工夫や配慮について、本文を踏まえた具体的な考えを述べている。

論理性：自分の主張と、その理由や具体例との関係が筋道立って述べられている。

表現：文法的に正確で、主語・述語が対応、「ですます調」もしくは「である調」に統一されている。

編入学試験 心理学科 【出題意図・解答例】

心理学部は、心理学の知識や研究方法を1年次から4年次にかけて段階的に深めていくカリキュラム編成になっている。したがって、本試験は、1年次に学ぶ基礎的な知識や研究方法についての理解を問う問題となっている。

問 1.

4領域（生理・認知，社会，発達，臨床心理学）における基礎知識の習得度を問う。

- (1) 選好注視法
- (2) 流動性知能
- (3) アルファ波
- (4) 感覚運動段階
- (5) 試行錯誤学習
- (6) 社会的手抜き
- (7) コーシャス・シフト
- (8) 精緻化リハーサル
- (9) 体験過程
- (10) 内言
- (11) PM理論
- (12) ミネソタ多面人格目録（MMPI）
- (13) 類型論
- (14) 割引原理
- (15) 床効果

問 2.

基本的な心理学用語を的確に説明できるかを問う。

解答例

- (1) 援助者が対象者の生活の場に出向き、ニーズやリスクをアセスメントしながら支援を行う活動。
- (2) 長期記憶の一種で、意識的に思い出し言語化できるような出来事や事実の記憶。
- (3) ピアジェの発達理論において、幼児が新しい経験を既存のスキーマに基づいて理解する過程。
- (4) 必ずしも成功するとは限らないが、うまくいけば解決に要する時間や手間を大幅に減少できるような手続きや方法。

- (5) 睡眠中の状態の一つで、急速眼球運動を伴う。体は眠っているが脳は活動している状態にある。

問 3.

心理学研究に不可欠なデータの分析スキルの習得度を問う。

(1)

	有	無
平均	27.8	25.3
メディアン	23.5	24.5

(2) 対応のない t 検定

問 4.

心理学の基本的な実験の理解度を問う。

(1) 系列位置曲線

(2) 自由再生法

(3) 正再生率

(4) 解答例：系列 1 から系列 5 にかけて正再生率は低くなり、系列 11 から系列 15 にかけて正再生率は高くなった。系列 6 から系列 10 はそれらよりも正再生率は低かった。したがって、二重貯蔵モデルの妥当性は検証された。

(5) 解答例：再生テストの制限時間：直後条件と遅延条件で思い出す時間を同じ長さにする。

問 5.

心理学研究に必要な実験計画の理解度を問う。

(1) 1 要因 3 水準の実験計画

(2) 各参加者をどれか 1 つの条件にのみ参加するよう配置する。つまり、36 人の参加者を 0 時間睡眠に 12 人、6 時間睡眠に 12 人、12 時間睡眠に 12 人に割り当てる。